

# 第4回 マチごとゼロカーボン市民会議 会議録

## ■ 日時・場所

日時：2022年11月27日（日）13:00～17:00

場所：所沢市役所 市庁舎高層棟8階大会議室

## ■ 出席者

参加者：34名（欠席17名）

話題提供：松橋啓介氏（国立環境研究所）、井原雄人氏（早稲田大学）、  
島田幸子氏（環境パートナーシップ会議）、神谷一彦氏（県立所沢高校）、  
所沢市都市計画課

司会（全体ファシリテーター）：平塚基志氏（早稲田大学）

グループファシリテーター：所沢市職員

グループサブファシリテーター：早稲田大学学生

## ■ プログラム

13:00	10分	開会・第3回までの振り返り等	
13:10	10分	チェックイン	参加者の自己紹介
13:20	30分	テーマ5 『移動からゼロカーボンを考える』 話題提供 1 松橋啓介氏より 2 井原雄人氏より 3 所沢市都市計画課より	1 移動のゼロカーボン 2 モビリティによる脱炭素化への選択肢 3 楽しく、そしてエコに暮らそう！
13:50	10分	休憩	
14:00	65分	テーマ5 ワーク	グループでアイデア、課題、解決策を話し合い、全体にシェア (発表:奇数番号のグループ)
15:05	20分	テーマ6 『地域での連携からゼロカーボンを考える』 話題提供 4 島田幸子氏より 5 神谷一彦氏より	4 パートナーシップで取り組む所沢市 マチごとゼロカーボン 5 高校生を地域で活かす！
15:25	10分	休憩	
15:35	40分	テーマ6 ワーク	グループで地域のステークホルダー（関係者）を挙げる、ステークホルダーの連携のできるアイデアを話し合い、全体にシェア (発表:偶数番号のグループ)
16:15	35分	今後の進め方	投票の進め方、とりまとめの説明・協議
16:50	10分	チェックアウト・閉会	1人1言感想

## 配布資料

---

- 資料 1 第 4 回マチごとゼロカーボン市民会議タイムテーブル
  - 資料 2 話題提供 1 移動のゼロカーボン（松橋啓介氏）
  - 資料 3 話題提供 2 モビリティによる脱炭素化への選択肢（井原雄人氏）
  - 資料 4 話題提供 3 楽しく、そしてエコに暮らそう！（所沢市都市計画課）
  - 資料 5 話題提供 4 パートナーシップで取り組む所沢市マチごとゼロカーボン（島田幸子氏）
  - 資料 6 話題提供 5 高校生を地域で活かす！（神谷一彦氏）
  - 資料 7 アンケート形式の投票について
  - 資料 8 第 4 回マチごとゼロカーボン市民会議 アンケート票
- ※資料 2～6 は事前にホームページ上で公表し、参加者に通知した

## ■ 記録

---

### 1 開会・振り返り・今後の進め方

はじめに、これまでの市民会議の振り返りを行い、参加者から寄せられた意見や要望を共有し、続いて今後の進め方や市民会議の目的、会議結果の反映方法等の再確認を行った。

### 2 自己紹介

チェックインとして、グループ内での自己紹介を実施した。用紙に「①ニックネーム、②所沢市内のおすすめの場所、お店、その他」の 2 点を書き込み、グループ内で共有した。

### 3 テーマ 5 『移動からゼロカーボンを考える』

1 つ目のテーマは「移動からゼロカーボンを考える」とし、①移動のゼロカーボン、②モビリティによる脱炭素化への選択肢、③行政の取組という流れで話題提供を行い、続くグループワークで、ゼロカーボンへのアイデアや、それを実施する際の課題並びに課題への対策について話し合う構成とした。

#### 3-1 テーマ 5 話題提供

##### 話題提供 1 松橋啓介氏

「移動のゼロカーボン」をテーマとして、社会システム領域・地域計画研究室長の松橋啓介氏より話題提供が行われた（資料 2）。

初めに、所沢市の 1 人当たり年間乗用車 CO<sub>2</sub> 排出量は、全国平均と比較すると少ないことを説明した。自家用乗用車は、輸送量当たり排出量が比較的高い交通手段であることから、なるべく使用を少なくすることが求められる。所沢市は「人口密度が高い・施設等が近い・公共交通が整っている」という都市構造であるため、「移動距離が短くて済む・徒歩や自転車利用が多い・鉄道利用機会が多い」という特徴があるとした。

続いて、低炭素社会の実現に向けては、ここ 10 年の傾向や 20 年先の予測・計画が急激に変化していることをふまえつつ、大幅削減を前提にバックカastingで社会の構造変化を考える必要があることを図示した。日々の地道な努力の啓発や燃費の良い車の選択等を誘導する制度整備に加えて、「公共交通や徒歩が使いやすいまちにする」・「環境負荷の小さい選択が得をする仕組みに

する」といった地域社会への働きかけと、その際の（本会議のような）市民参加が重要であるとした。

また、移動の脱炭素においては、供給側の対策のみでの大幅削減には限界があり、消費側の対策を組み合わせることで大幅削減が可能になるとした。さらに、欧州の市民会議における政策アイデアの例や、「便利なまち」（移動距離が少なくて済む+電気自動車の普及、公共交通で拠点を結ぶ+徒歩・自転車の組み合わせ 等）の考え方を紹介した。

## 話題提供 2 井原雄人氏

「モビリティによる脱炭素化への選択肢」をテーマとして、早稲田大学 スマート社会技術融合研究機構 電動車両研究所 客員准教授の井原雄人氏より話題提供が行われた（資料3）。

初めに「モビリティ（移動しやすさ、移動性、移動の仕組み）」と「ヴィークル（乗り物、移動手段）」を定義し、脱炭素を目指すには、前者に関しては乗り物の使い方を変え、後者に関しては乗り物自体を変えていくことになることを説明した。

これに関し、電気自動車で使用する電気が何によって発電されたものかなど、動力源に使うエネルギーの作り方も重要であることを示した。また、大人数が乗車できるバスや鉄道について、もし乗り合う人が少なければ、1人当たりのCO<sub>2</sub>排出量は悪化することを示した。これらを踏まえ、バスについて、①電動化した際の車両1台当たりのCO<sub>2</sub>削減量と②乗合を促進することによるCO<sub>2</sub>削減量を比較した。

最後に、移動に関わるCO<sub>2</sub>削減の方法として、生活習慣の転換、公共交通の利用促進、車両の電動化と性能向上、充電のための再エネの導入促進等を挙げた。

## 話題提供 3 所沢市都市計画課

「楽しく、そしてエコに暮らそう！」をテーマとして、所沢市都市計画課より話題提供を行った（資料4）。

初めに、所沢市の移動と公共交通の課題として、①生活のための移動手段の確保、②公共交通の利便性の向上、③自家用車からの転換と公共交通利用の促進の3点を挙げた。公共交通を使いやすくして積極的に使ってもらうことで環境負荷を減らすという目標を示し、「クルマに依存しない、歩いて楽しいまちづくり」を目指した取組を行うとした。

併せて、所沢市の公共交通について、概要、カバー率、利用者数の推移等のデータを示した。

## 3-2 テーマ5 ワーク

話題提供1~3を受けて、まず司会者が話題提供のポイントを整理して示した。話題提供1では「市民、事業者、行政という異なる立場で（&連携で）、そして対策による時間軸を踏まえて」、話題提供2では「移動の対策メニューを見ながら、日常生活で変化できることを見つける」というポイントを確認したうえで、グループ内で意見交換を行った。

ワークは、「①ゼロカーボンへのアイデアを考え共有⇒②取り組むにあたっての課題を考え共有⇒③課題への対策を考え共有⇒④全体共有」という4段階で進められた。その際、取り組む主体が「自分」なのか「他の誰か・組織」なのかを明確にし、特に前者を重視して、自身の生活を踏まえて「自分ごと」として考えを深めることを目指した。

①~③では、「個人ワーク（付箋に記入）⇒グループワーク（共有）」の作業を行い、模造紙に付箋を貼りながら話し合いを進めた。①では黄色の付箋、②ではピンクの付箋、③では緑の付箋を

用いた。個人のアイデア等を共有する際には、①では各自が順番に付箋をファシリテーターに渡し、ファシリテーターがグループ内にシェアしながら模造紙に貼っていく方法をとった。また、②及び③では各自が付箋の内容を説明しながら直接模造紙に貼っていく形とした。

グループワークのとりまとめとして、④では、4つのグループ（グループ1・3・5・7）が「最も対話が深まったこと」を全体に共有した。

この発表を受け、話題提供者の松橋啓介氏と井原雄人氏が講評を寄せた。要旨は以下のとおりである。

〔グループ 1〕 自分の行動として徒歩移動を増やす。加えて自動車の渋滞回避に取り組む。前者は歩道が不便という課題があるため、段差など危険な場所を近隣在住者から聞き取り、歩道の整備を進める。後者は交通規制や学校や駅周辺でのマイカー規制などを実施する。併せてポイントやプレゼントなど報酬の付与により徒歩移動を促進する。

〔グループ 3〕 自転車の使用を促進する。行政は自転車が走りやすいように自転車専用レーンの設置や道路の凹凸の補修を行う。また、公共交通機関がより利用しやすくなるよう、電車とバスのスムーズな接続のためダイヤを見直す。車は悪者で廃止するというのではなく、家庭で一日だけでも車に乗らない日・公共交通を利用する日を作る。

〔グループ 5〕 自転車で安全に移動できるようにお金をかけて道を整備していく。資金はクラウドファンディングで、「こうなってほしい」と希望する人・やりたい人がまちに貢献する。また、歩きたくなるまち、治安が良くて景色が楽しめるまちがよい。日替わり・週替わりでイベントが行われたりお店が入れ替わるなど、飽きが来ないまちにする。

〔グループ 7〕（発表者自身の取組として）小手指周辺の大規模マンション群の空いた駐車場などのスペースで、カーシェアリングやシェアサイクルの導入やマルシェの開催を検討しているが、住民の理解が得られずマインドが変わらない状況である。セキュリティ面の課題があるので、強化、改善していくことで理解が得られるかと思う。

〔感想〕（グループ 3 へ）バスと電車の発着時間を連動させる案は公共交通機関が使いやすくなるのでとてもよいと思った。西武などと連携していけたらよりよいと思う。

〔質問〕（グループ 1 へ）歩行（徒歩）のポイントは、どこから付与されどのような形に返還されるのか。

〔回答〕県が実施する既存のサービス「埼玉県コバトン健康マイレージ」（歩くとポイントが貯まり、抽選で商品券が当たる）のアプリの普及ができればよいのではないかと考えている。

〔松橋氏〕 ①「（対策のための）お金があまりないだろう」という話があったが、炭素税のような制度が既に検討されていて、そこで集めたお金を一人一定額配ったり、徒歩に対するポイント付与や電気自動車への補助金に使ったりするなど、使い道（何にお金を払ったらいいか）を決める時に皆さんの意見は参考になる。  
②歩行者の信号待ちが長い、歩行者が危険だという点は市に対策を頑張ってもらいたい。

- ③公共交通が不便という点について、コミュニティバスと異なり路線バスにはあまりお金が出されていない。海外では自治体が3～7割お金を出している例もある。乗り継ぎしやすくするための対策などで市などが応援していけたらよい。
- ④現在ガソリン代が高騰しているが、そこに炭素税が加わったとき、自家用車の乗車距離や回数が減ったりカーシェアが増えたりする可能性がある。また、集合住宅に電気自動車のカーシェアがあれば駐車場がそれほどなくてもよく、建て替えの際にお金がかからずに済むといった政策もできたらよい。
- ⑤高齢になり運転できなくなった時の議論があまりなかった。ネットスーパーや電動車椅子を使いやすくすることや、安く住み替えできる場所の提供などが今後課題になるのではないかと。

〔井原氏〕 徒歩について、「たくさん歩くと健康になる・医療費が下がる」ということや、「公共交通が発達している都市ほど色々な疾病にかかる割合が低い」という点については、統計的に色々なデータを積み重ねて実証が進められている。歩ける環境を増やすことはCO<sub>2</sub>削減にも健康にもよいし、お金の面でも、医療や福祉の分野に与えるインパクトが大きいので、取り組んでいくとそちらの方から予算が出てくるのではないかと個人的には思っている。

## 4 テーマ6 『地域での連携からゼロカーボンを考える』

2 つ目のテーマは「地域での連携からゼロカーボンを考える」とし、①地域でゼロカーボンを進めるには多様な主体の連携が有効であることの説明と取組み事例、②高校生と地域の主体が連携した地域を元気にする取組み事例に関する話題提供を行い、グループワークでは、地域のゼロカーボン実現に向けたステークホルダーを挙げ、その連携でできるアイデアについて話し合う構成とした。

### 4-1 テーマ6 話題提供

#### 話題提供 4 島田幸子氏

「パートナーシップで取り組む所沢市マチごとゼロカーボン」をテーマとして、一般社団法人環境パートナーシップ会議の島田幸子氏より話題提供が行われた（資料5）。

初めに「地方環境パートナーシップオフィス（地方 EPO）」の紹介を行い、その設立目的である「持続可能な社会の構築」に関連して、持続可能な開発目標（SDGs）について解説した。また、持続可能な地域社会においては、多様な主体による協働取組が地域課題を同時解決することや、サステナビリティへの理解促進が地域資源の循環型利用促進につながるといったイメージを示した。

さらに、取組の始まりはその地域に主体性のある誰かであり、重要なポイントとして、「ひとり」や「ひとつの組織」だけでは絶対に実現できないという点を挙げ、課題・テーマのつながりから「人」を見つけ、パートナーシップや協働取組につなげるプロセスを概説した。

最後に、実践例として熊本県水俣市の「ごみ減量女性連絡会議」、静岡市の「しずおか校庭芝生化応援団」等の4つの取組を紹介した。

## 話題提供 5 神谷一彦氏

「高校生を地域で活かす！」をテーマとして、県立所沢高校教諭の神谷一彦氏より話題提供が行われた（資料6）。

初めに、所沢高校のインターアクトクラブの活動例として、地域の森林や河川の保全活動、農業ボランティア、海外の高校との交流など、地域奉仕と国際交流の2つを柱とした活動を紹介した。

また、「総合的な探究の時間の活動」として生徒それぞれが課題を発見して解決に取り組む「マイプロジェクト」の例を紹介した。このほか、同校の同窓会による在校生支援活動「THis（株式会社所沢高校）」も挙げた。

高校生が地域の活動に参加することは、高校生と地域の双方にとってメリットが多い。両者を繋げるためには、社会に開かれた学校づくりと中高生を受け入れる地域づくりの2点が重要であると、それぞれのポイントを挙げた。

### 4-2 テーマ6 ワーク

話題提供 4・5 を受けて、まず司会者が「地域での連携からゼロカーボンを考える」というテーマとそれぞれの話題提供の関係を整理して示し、続いてグループ内で意見交換を行った。

ワークは、「①地域のステークホルダー（関係者）を挙げ共有⇒②複数のステークホルダーの連携で実施できるアイデアを考え共有⇒③全体共有」という3段階で進められた。

①・②では、「個人ワーク（付箋に記入）⇒グループワーク（共有）」の作業を行い、模造紙に付箋を貼りながら話し合いを進めた。①では黄色の付箋、②ではピンクの付箋を用いた。個人のアイデア等を共有する際には、各自が付箋の内容を説明しながら直接模造紙に貼っていく形とした。

グループワークのとりまとめとして、③では、3つのグループ（グループ2・6・8 ※4は欠番）が「最も対話が深まったこと」を全体に共有した。

この発表を受け、話題提供者の島田幸子氏と神谷一彦氏が講評を寄せた。要旨は以下のとおりである。

〔グループ2〕 SNS とママ友と商店を掛け合わせることでフードロス削減に一役買えるのではないかと、同様にソーラーパネル設置などの情報共有が可能なのではないかとという案が出た。キーワードは「人とのつながり」で、行政や民間企業頼みではなく、自分たちの周りから変えていけるのではないかとという話になった。

〔グループ6〕 学習塾やスポーツクラブでフードロス削減や制服の寄付などに取り組むという案が特に盛り上がった。（発表者のアルバイト先の学習塾で実際に行っている。）（公共機関以外の）様々な団体が取り組み、市役所や公民館の広報を通じて広く知らせていくことで、地域ぐるみで活発に盛り上げていけるのではないかと。

〔グループ8〕 1 つ目に、太陽光パネル設置会社と西武鉄道バスと市が連携してソーラーパネルカーの「ところタクシー」を開発する。エコだし周知に役立つ。2 つ目に、スポーツジムに通う人と市と太陽光パネル設置会社で発電機能のある施設を作り、自転車発電などが促進されるとよいという意見が出た。

〔質問1〕（グループ2へ）フードロスに関して、食品を子ども食堂に持っていくという意見は出たか。

〔回答〕 子ども食堂に関しては出てこなかった。

〔質問2〕（グループ6へ）フードロス解消のために食品回収ボックスを展開していくという点が興味深かった。回収後の食品はどうなるのか知りたい。

〔回答〕 全て把握しているわけではないが、行政を通じ、生活費で困っている家庭に寄付されると聞いた。

〔感想〕（グループ8へ）ジムで発電するというのは非常に面白い。自分もダイエット中なので検討したい。

〔質問3〕（グループ8へ）実際に発電している施設があるということだが（所沢市民体育館）、電気は施設内で循環しているのか、それとも売電できるくらいあるのか。

〔回答〕（市が事業者を確認）発電した電気は、今のところ特には活用されていない。

〔島田氏〕 ワークがうまくいくか、付箋はたくさん出てくるのかと心配していたが杞憂だった。それぞれ地域の中にどんな人がいるのか、その人の強みは何なのかを考え、強みと強みを掛け算することで新しい取組のアイデアがたくさん出ていた。所沢市の中にいる人たちが自ら「マチごとゼロカーボン」に進んでいくために考えることができたのではないかと思う。

〔神谷氏〕 こんなにステークホルダーがたくさんいて、グループによって出てくる型が違う。それぞれが持っているリソースも違うということが面白かった。主体性がキーワードになっている。自治体にお願いするのではなく、自分たちで思いついたことをやってみることが大事だ。市もそれを待っているのかもと思う。ぜひ具体化するとよい。

## 5 今後の進め方

第4回市民会議終了後に、これまでの提案内容（テーマ1～6）に基づくアンケート形式の投票を実施することから、投票の目的、設問の作成プロセス、構成及び回答方法等をマチごとエコタウン推進課より説明した（資料7）。続いて、第5回目の進め方及び全5回のとりまとめ方針について司会より説明した。

その後、参加者から質問や意見を募り、随時回答を行った。要旨は以下のとおりである。

〔意見1〕 投票について、（資料7の）設問例の説明書きが読みづらい。ボリューム感（設問の多さ）に対して長く、切れ目がわからない。括弧書きが多いのもストレスになるので、箇条書きや太字の使用など見せ方を工夫して視覚的にわかりやすくしてほしい。

〔回答〕 行を短くするなど、いただいた意見を反映して対応する。

〔意見2〕（投票の選択肢の）「3 これまで同じでよい」と「1 推進すべきでない」はほとんど同じ意味ではないか。基本的に皆「4 推進すべき」か「5 積極的に推進すべき」のどちらかを選ぶのではないか。

〔回答〕 他の自治体の傾向もそうっており、今回も同様かもしれない(3,4,5の割合が高い)と思っている。5段階で選ぶとどうしてもそうなるところがあるが、今回テーマごとに優先順位を選ぶことで差異化ができると思っている。なお、「1 推進すべきでない」を選ぶ場合はできれば理由を添えていただけるとありがたい。

〔質問1〕 投票の際に家族や友達に相談してもよいか。

〔回答〕 できれば全4回の市民会議の議論を踏まえてご自身の考えで記入していただきたい。

〔質問2〕 最終的な環境審議会の結果を報告してもらえるか。

〔回答〕 報告の場は今のところ考えていないが、審議会の結果が市ホームページに掲載された際には皆さんにメールでご案内する。また、計画の改定版は来年度の（2024年）3月頃にできあがるが、そこには何らかの形で市民会議のことを掲載したいと思っているので、改訂版ができあがった際にはお知らせしたいと思っている。

〔補足〕 投票結果を単純にグラフにして挙げるだけでなく、文章を添えて、全5回の市民会議の総括のような簡単なレポートを作ることになると思う。文章は皆さんとキャッチボールしながら、2月の審議会に向け作成していくことをイメージしている。

## 6 チェックアウト・クロージング

本日の締めくくりとして、グループ内で1人1言の感想を共有した。また、参加者アンケートを実施した。

## 7 閉会

以上